



趣味:スポーツ観戦、
ドラマ鑑賞
好きなこと:お店巡り
性格自己分析:
石橋をたたいて渡る、
慎重派



- 免許番号：和歌山県知事 (1) 第 4054 号
- 事務所所在地：岩出市山 878-1
- TEL：0736-79-3562
- FAX：0736-79-3591

第28回目は、那賀エリアで新たにお仲間となった「NODA不動産代表 野田道夫さん」をご紹介します。

まずは開業に至った経緯を教えてください。

以前から開業しようと、なんとなく考えてはいたのですが、宅建試験に合格し、取引士の資格を取得したことがひとつのきっかけです。長年不動産業に携わってきましたので、経験を活かしてやっていこうと決断しました。

宅建協会を選んだきっかけは何でしょうか？ 決め手はどのような点ですか？

やはり規模です。県内の80%の宅建業者さんが加盟していることはあらゆる面においてメリットだと思います。会員数が多いと業者同士の交流ができますし、私の場合は以前の勤務会社も宅建協会の会員でしたので、そのつながりから開業した今も、お客様を紹介していただくことなどに助けられています。また、業務においては書式など統一されたものを使用することが多いため、業者間の取引もスムーズに進みます。



主な業務内容を教えてください。

メインは売買仲介業務です。少しずつ声掛けをして紹介してもらったり、契約につながっています。これまで仲介業務以外にも、建売、建築、リフォーム、土地活用といったことに関わった経験があり、それらはすべて今に活かされていると感じています。まだまだ手探り状態ですが、できる範囲で地道に活動し、お客様に喜んでいただけたらと思っています。



これまで15年以上のキャリアがあるとお聞きしましたが、苦労したことはありますか。

正直、苦い経験もありましたが、そのおかげで学んだことがたくさんあります。例えば、様々な物件を扱っていると、お客様にとってデメリットとなる点が出てくることはあります。そういった場合は、出来るだけ先に伝えておくことが、後々のお客様のためでもあり、トラブルを防ぐ上で非常に大事なことだと思います。そのために細かな部分まで調べ、疑問は残さないようにしています。元々慎重な性格で、時間をかけてじっくり進める方だと思っているのですが、そういったことはこれまでの経験から学んだことかもしれません。念には念を、やりすぎるくらいが丁度いいのではないのでしょうか。



終始穏やかな口調で、気さくにお話してくださる野田さん。

最後に今後の目標を教えてください。

お客様のご希望に添うような物件を提供できるように、まずは預かり物件を増やしていきたいと思っています。インターネットを利用したり、自ら声かけをするなど自分なりのペースで取引に進めていこうと考えています。



事務所は、粉河加太線からひとつ入った道路沿いで、大きな看板が目印です。



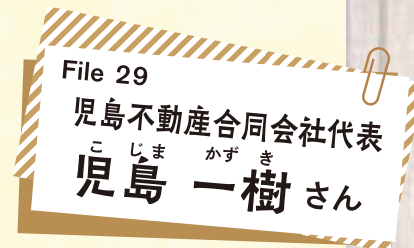
長時間にわたるインタビューにも関わらず、ひとつひとつ丁寧に回答いただき、ありがとうございました。今後も会員同士情報交換等を通じ交流していきましょう！



広報啓発委員 児玉真維 宮田菜保子



- 免許番号：和歌山県知事(1)第4056号
- 事務所所在地：和歌山市湊本町1-10-1-706
- TEL：073-499-6821
- FAX：073-499-6822



第29回は、和歌山エリアで開業された児島不動産合同会社 児島一樹さんにお話を伺いました。

不動産が動けば経済が動く

まずは開業に至った経緯を教えてください。

“和歌山の活性化のため”というおこがましいですが、不動産業を通じてその手助けができたかと思いました。和歌山県は、皆さんもご存じの通り、空き家の放置が多く、問題となっています。この空き家問題を少しでも解消すべく、不動産を活用し流通させていく提案ができたかと考えています。例えば民泊施設としての活用の提案など。空き家対策にもつながり、また、建築、リフォームなどそれに伴った様々な動きが生じます。不動産が動けば経済も動き、回転していきます。微力ながら自身の動きが和歌山の活性化につながっていけばと思っています。



宅建協会を選んだ理由も空き家対策が関係してくるのでしょうか？

宅建協会は、空き家対策に関する事業を積極的に行われているということを耳にし、周りからの勧めもありました。自身の目指すところと宅建協会の取り組みが合致するという点は入会のきっかけになりました。



民泊施設を増やしたい

主な業務内容は？

古家の売買仲介を主な業務としています。今考えているのが、民泊施設の提案です。毎年、和歌山県には観光客が多く訪れていますが、宿泊施設が少なく一部の地域以外には滞在してもらえないのでは、と感じています。前職で不動産営業をしていた頃、空き家を所有していても、思い入れがありなかなか簡単には手放したくないという方が多くおられま



した。
例えばそんな方に、民泊として新たな活用方法を提案していければと考えています。民泊は居住専用地域でも営業ができるという点で旅館に比べ敷居は低いかと思えます。古民家再生の明るい兆しとして、そして空き家問題の解決、まちの活性化に繋がればと思っています。



児島さんは、多趣味だと伺いましたが具体的にはどういったことがお好きですか？

以前、観賞魚の販売をしていたことがあって、グッピーやエンゼルフィッシュなど熱帯魚を扱っていました。生き物は好きなので、現在も事務所で飼育しています。あと、骨董品の収集も趣味のひとつで、花器や器、絵画や掛け軸など数多く所有しています。密かに、いつか骨董品屋をやってみたいという願望もありますが、今はたまに眺めて満足しています。

ただ、気づかないうちに数が増えすぎて家族を困らせています（笑）



児島さんについてご紹介

趣味：観賞魚の飼育、骨董品収集
好きな食べ物：お肉
性格：熱しやすく冷めやすい
これまでの経歴：不動産営業や郵便局の保険営業、ラーメン屋経営の経験もあり



小さなことからコツコツと

今後の展望を教えてください

民泊など宿泊施設を増やすこともそうですが、地道にひとつひとつ取引を行い、継続していきたいと思っています。1人1人の動きは小さいですが、地道に結果を出していき周りを動かすきっかけになればと思います。そして地元和歌山がさらに活性化し、盛り上がっていけばと思います。

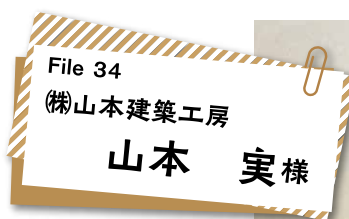
色んなことに興味をお持ちで、やりたいことがまだまだたくさんあるとのこと。明るくエネルギー感あふれる児島さん。今後の活躍が楽しみです。

広報啓発委員 児玉真維 宮田菜保子





- 免許番号:和歌山県知事(1)第4108号
- 事務所所在地:田辺市たきない町12-20
- TEL:0739-25-5775
- FAX:0739-25-5779



今回は、田辺市で開業された(株)山本建築工房 代表 山本 実さんにお話を伺いました。
家づくりへのこだわりや地域への想い、そしてこれからの住まいづくりについて語っていただきました。

家づくりを通じて考える土地と不動産のこと

不動産業開業のきっかけは？

当社はもともと家づくりを中心に取り組んできましたが、最近土地探しや土地活用のご相談も増えてきました。これまでは知り合いの不動産業者さんをお願いしていましたが、「まずは自分たちが窓口になった方が、よりスムーズに進められるのではないかと感じるようになりました。不動産業は、最初から目指していたというよりも、「お客様の住まいづくりをもっと良くしたい」という思いの延長で、自然と広がっていった分野です。和歌山市で既に地域に根ざした活動をされている工務店さんや、田辺の事業者の方が宅建協会に加入されていることを知り、お仲間に入れていただこうと思いました。



開業して感じたのは、重説を—から作る大変さ、重要さ。様々な気づきがあり、学ぶことが多いです。

現在のお仕事の内容や、日々の業務で大切にされていることをお聞かせ下さい。

一般的な工務店では、自社で土地を購入して造成し、条件付きで販売するケースも多いですが、当社はその形にこだわっていません。自分たちだけで抱え込むのではなく、窓口となって地域の事業者さんと連携しながら進めていくことを大切にしています。

切磋琢磨はしつつも、「一人勝ち」ではなく、情報を共有しながら一緒に成長していく—そんな関係づくりを目指しています。流通が決して活発とはいえない和歌山県内、特に田辺エリアにおいても、観光という視点ではまだまだ可能性はあると思っています。若い世代が魅力を感じて、「ここで暮らしたい」と思ってもらえるような地域づくりに関わっ

ていきたいです。

お仕事以外ではまっていることなどはありますか？

趣味のひとつは、多肉植物を育てることです。なかでもアガベがお気に入り、種から育てたり、成長の様子を発信したりと、その奥深さを楽しんでいます。最近はお客様へのご提案として「多肉ガーデン」を取り入れることもあり、仕事と趣味が自然につながっています。アガベは、植えてすぐ完成するものではなく、時間をかけてゆっくり育てていく植物。その成長を見守る時間が何より楽しいです。



地元の仲間と地域を盛り上げていきたい

今後の展望は？

地元の工務店同士が建てた「見学会」など実現させたいです。地域の工務店が集まり力を合わせることで、「地元が選ばれる」仕組みをつくっていききたいですね。また、この仕事の魅力を伝えられる機会にもなれば嬉しいです。

お客様の要望を受け入れつつ、自信を持って提案できるよう、体制を整えていきたいと思っています。

穏やかな語り口の中に、地域へのまっすぐな想いが感じられた山本社長。「一人勝ちではなく、ともに成長していきたい」という言葉がとても印象的でした。同じ田辺エリアの会員として、これからも交流を重ねていきましょう。

取材：広報啓発委員 山田和弘